学校だより
みなみたなか
平成２５年１月３１日
練馬区立南田中小学校
校長　柾谷　雅弘

心にゆとりとやさしさをもつ子供に育てましょう

校長　柾谷雅弘

「布施柿」という言葉をお聞きになったことがありますか。

私が子供の頃、近所のあるお年寄りから次のような話を聞いたことがあります。

「私の育った山国秩父の特産物の一つに干し柿がありますが、土地ではこれを吊し柿と呼んでいました。当時、農家に限らずどこの家にも、家の周囲に柿の木が一本や二本は必ず植えられていたものです。甘柿もあれば渋柿もありました。

やがて柿の実が熟れて食べ頃になると、その実を落とすのですが、年寄りたちは、『柿を全部とるのではない、必ずいくつか残しておくように。』と口を酸っぱくして子供たちに言っていました。

その意味は、冬になって真っ白な雪に赤い柿の実の映えるのは美しいからであるとか、葉が全部落ちた枝にポツリポツリと残る赤い実に風情を感ずるからなどと、理屈をつける人もいたようですが、実際は、そんな情緒的なものではないのです。

本当は、冬になって餌の少なくなったとき、小鳥たちが集まってきて柿の実をついばむために残しておいてやるというのです。

つまり天地自然の恵みに感謝し、人間だけでなく小鳥たちにも分け与えてやるという、心のゆとりややさしさを、無言のうちに私たちに教えてくれていたのでした。

このように、小鳥たちのために残した柿を『布施柿』といったのです。」

ご存じのように「布施」とは、僧侶たちに 読経などのお礼として金銭や品物をほどこし与えることをいいます。この場合も、小鳥たちに柿を残しておいて分け与えてやるということから、「布施柿」と呼ばれるようになったのだと思います。

最近の移り変わりの激しい世の中で、とかく失われがちな心のゆとりを教えられる感じがいたします。

小鳥のために柿を残すようなやさしい心が子供の中に芽ばえ育つように、家庭も学校も社会も、それぞれの責任において努力していきたいものだと思います。

２月９日（土）の道徳授業地区公開講座は、道徳の授業を公開し、保護者の皆様や地域の皆さんと学校が心を一つにして児童の健全育成のために手を携えていくきっかけになればと願い毎年実施しています。授業だけでなく講演会にも是非ご出席ください。心よりお待ちしております。

地域の方から心が温まるメッセージをいただきました

平成２２年７月１日に、カリフォルニア州教育文化交流団の皆さんが来校されましたが、その時、通訳ボランティアとしてお力添えをいただいた方から、本校の児童について大変うれしいメッセージをいただきました。児童の励みとなるメッセージを有り難うございました。

先週土曜日の午前中、娘が風邪を引いてしまい、替わりに南田中図書館へ取り寄せた本を受け取りにいきました。久しぶりだったので、間違えて体育館の方にいってしまいました。すぐそばの児童公園で遊んでいた男の子二人に図書館を訪ねたところ、「ご案内します。」と言って、遊びをやめ、すぐに出てきて教えてくれました。

そして、途中まで案内をしてくれました。学年を聞きましたら、５年生とのこと。「すぐに、行動に移せて素晴らしいな。」と大変嬉しく思いました。

ご家庭の躾、先生方のご指導が素晴らしいのでしょう。

大変嬉しく印象的でしたので、ＦＡＸさせていただきました。

４年生を対象に１月２８日（月）実施した「ピティナ学校クラスコンサート」より

コンサート風景

体育館に全校児童を集めて実施する芸術鑑賞教室とは違い、演奏者との「距離の近さ」にこだわって実施していただいています。音楽室で１クラスずつ行うことで、演奏者の息遣い、指の動き、鍵盤や弦の動く様子などを、間近で体感することができます。

当日は、ピアニストの伊賀あゆみさんとヴァイオリニストの竹中勇人さんにお越し頂き、素晴らしい演奏とお話を聞かせていただきました。子供たちは聴き惚れ至福のひとときを過ごすことが出来ました。

お二人は、４年生の聴く態度が非常に立派ですと感心していました。